



やあ!特集 栃木県外国人地域支援室

- とちぎへようこそ… AFS留学生
世界をペロリ ベルー料理「パパ ラ ワンカイナ」
心に残る私の写真 エチオピア 知久志穂子さん
国際協力への扉 「栃木から行ってきます!」

世界のお祭り ~フィリピン(セブ島)編~

シヌログ (Sinulog)



フィリピン・セブ島のお祭りSinulog（シヌログ）はフィリピンで最も大きなお祭りと言われています。毎年1月に9日間行われ、サントニーニョ（幼いイエスキリスト）を祭るお祭りです。フィリピンに最初にキリスト教をひろめたマゼランが、セブを訪れ、セブの酋長がキリストを受け入れ、そのときに、マゼランがサントニーニョの像を送ったのですが、布教活動の途中、スペイン人が従わなかったセブ住民を不ஸに思い火を放ちました。しかし、サントニーニョ像は奇跡的に無事だったため、奇跡の神様として崇められるようになったと言われています。この祭り最大の目玉は、第3週目の日曜日に行われるグランドフィナーレ、いわゆるパレードです（写真）。シヌログのパレードは「リオのカーニバル」と「よさこい」をかけ合わせたようなもので、多くのダンスチームが市内を練り歩いて、ダンスを競います。優勝チームは賞金がもらえるということもあります。多くのダンスチームがこの日のために練習を積んできているので、この日がいわばお披露目です。もちろんテレビ等でも放送され、その様子はリオのカーニバルに負けず劣らずの賑やかさです（写真提供 フィリピン政府観光省）。

今年も7名のAFSの留学生が、それぞれのホストファミリー宅にホームステイしながら、県内の各高校に通学し、日本の高校生と同じように高校生活を送っています。

AFSとは… 高校生を中心とする青少年の交換留学50年以上の歴史を持つ文部科学省所管の団体です。

- ①氏名・愛称 ②出身国 ③生年月日（年齢）
- ④留学先（高校名）・部活動名等 ⑤趣味・特技
- ⑥栃木県の印象（人・町の様子）や日本で驚いたこと、やりたいこと。また母国との学校との違い等。



- ①Fülöp Cecile (セシル)
- ②ハンガリー
- ③1992.12.18 (17歳)
- ④県立宇都宮北高校 部活動：弓道部、IEC部
- ⑤読書
- ⑥宇都宮の餃子はおいしい。3年前に旅行で家族と日光にきたことがある。栃木県はきれい。ハンガリーにいた頃アーチェリーはやっていたが、弓道のほうが面白い。ぜひ弓道大会にも出場したい。体育の授業で着替えるとき、男女一緒に着替えることに驚いた。ハンガリーでは別々。日本の男の子はシャイ、ハンガリーの女の子は大人になりたくて背伸びするが、日本の女の子は可愛くなりたいような感じがしてすごく年下に見える。ミニスカートはいて自転車で通学するのは恥ずかしい。

弓道のほうが面白い。ぜひ弓道大会にも出場したい。体育の授業で着替えるとき、男女一緒に着替えることに驚いた。ハンガリーでは別々。日本の男の子はシャイ、ハンガリーの女の子は大人になりたくて背伸びするが、日本の女の子は可愛くなりたいような感じがしてすごく年下に見える。ミニスカートはいて自転車で通学するのは恥ずかしい。



- ①Alex Jesús González Chen (アレックス)
- ②パナマ
- ③1992.04.18 (18歳)
- ④県立宇都宮北高校 部活動：柔道部
- ⑤インターネット、柔道
- ⑥栃木県はきれい。人々も親切で丁寧。ただし物価は高い。日本はタバコを吸ってる人が非常に多い。どこも煙がすごくて嫌。トイレに和式があるのにはびっくりした。街中には髪の毛を染めたり、メイドのコスプレをした人がいて驚いた。日本の学校は学校でお昼を食べるが、パナマでは家に帰って食べる。高校の女の子は奇声を発したりにぎやかで日本の女の子のイメージとは違っていた。柔道は楽しいので続けたい。



- ①Ariel Butler (アリエル)
- ②アメリカ合衆国
- ③1993.04.19 (16歳)
- ④県立宇都宮中央女子高校
部活動：バドミントン部、ダンス部
- ⑤フィギュアスケート、漫画を描くこと、スケッチ
- ⑥栃木県は農場が多い。人々は親切で、自転車で走ると挨拶してくれる、フレンドリーな感じ。アメリカの高校生はアルバイトする人が多いが、日本の学生はよく勉強する。街中の英語はまちがいが多い。トイレに和式があるのはびっくりした。

アメリカの高校生はアルバイトする人が多いが、日本の学生はよく勉強する。街中の英語はまちがいが多い。トイレに和式があるのはびっくりした。



- ①Sarah Frances Haxell (セーラ)
- ②ニュージーランド
- ③1991.09.10 (18歳)
- ④県立栃木女子高校
部活動：剣道部、書道部英語部
- ⑤料理、歌をう、プリクラ、写真を撮ること。
- ⑥栃木の街が小さい。みんな親切。日本の英語の授業は可笑しい。日本の学校は小さい。部活動はニュージーランドにはない（スポーツクラブが少しあるだけ）。2年前、修学旅行で広島に行ったので、もう一度広島に行きたい。剣道の大会にも出たい。



- ①Thipphavanh Chalewnvong (ボビー)
- ②ラオス
- ③1993.11.26 (16歳)
- ④県立栃木翔南高校
部活動：書道部、英語部
- ⑤音楽を聞くこと、漫画、絵を描くこと
- ⑥栃木の人は親切、やさしい。ラオスの風景は栃木と似ている。交通に慣れるまで大変だった。（ラオスは右側通行のため）。漢字が難しいが、書道を習って漢字をかなり取得した。日本の漫画はラオスでも人気がある。10月に友人が船で来るので、そのときにラオスの友人を案内してあげたい。



- ①Yada Teerawatvatin (ヤダ)
- ②タイ
- ③1993.8.27 (16歳)
- ④県立宇都宮女子高校
部活動：弓道部、茶道部
- ⑤ピアノを弾くこと
- ⑥栃木の人はやさしい。日本の通学方法は電車が多いけど、タイはオートバイが主流。タイには部活がないが、タイにいた頃ドラマで日本に部活があるのを知った。弓道は初めてやったが面白い。日本語は難しい、特に漢字は難しい。日本の漫画は面白い。学校でスキーに行く予定なので楽しみにしている。北海道旅行もしたい。



- ①Nils Gustaf Engsner (ゲスタフ)
- ②スウェーデン
- ③1992.12.9 (17歳)
- ④県立宇都宮高校 部活動：柔道部
- ⑤ギター、映画、ゲーム
- ⑥宇都宮は小さいが、緑が多い。スウェーデンのほうが交通は発達している。日本のバスの本数は少ない。スウェーデンの学校は制服がない。校内に食堂があるので弁当の習慣もない。日本のように毎日授業時間は決まっていない。ブラジルの柔術、ムエタイをスウェーデンにいる頃、習っていたが、柔道はおもしろい。柔道は留学生だから試合には出場できないが、黒帯になるようになりたい。日本語も上手になりたい。

県内企業のための留学生採用セミナー&留学生就職支援セミナー

(財) 栃木県国際交流協会がはじめて、県内の企業の人事担当者を対象に採用セミナー、また県内の大学に通学する留学生を対象に就職支援セミナーを7月1日(水)と8日(水)、ともにとちぎ国際交流センターで行った。参加者は、採用セミナーが、企業関係者ら約30名、就職支援セミナーが、留学生ら約30名。

県内の中小企業では、関心があつても在留資格の煩雑さがネックになつたり、留学生の定着率の低さを懸念し採用を敬遠するケースが多い。また、留学生は日本の面接方法等について学ぶ機会も少なく、採用に至らないケースもあるため、心得等を学んでもらおうという主旨で開いた。今回の採用セミナーでは、行政書士、栃木労働局、企業担当者が、外国人留学生採用の際の手続きや注意点、また実際の経験談を話し、就職支援セミナーでは、就職採用専門家による外国人留学生の就職の際の注意点や、実際に県内の企業に就職した先輩留学生からのアドバイスを話してもらった。今回、経験談を語ってもらった足利銀行に就職している劉璠さんは、企業へのアプローチ方法や面接での体験を熱く語り、参加した留学生からの質問にも丁寧に答えていた。



▲熱心に留学生らの質問に答える劉璠さん

TIAでは、最近各地で多発している地震などの災害時に在住外国人をサポートする「災害時通訳ボランティア」を養成するセミナー（全2回）を今年も実施した。

第1回 「災害時通訳ボランティアの心構えについて」

6月20日（土）に多文化共生センター大阪の田村太郎氏を講師にお招きし、阪神大震災、新潟中越地震、新潟中越沖地震の被害状況をはじめ、それぞれの地震のときに被災した外国人支援のためにどのような活動をしてきたかを紹介した。特に避難生活をする外国人の問題点、避難所巡回をする方法や伝達すべき情報など、通訳ボランティアが直面する状況を知ることができた。その後は各グループに分かれ、災害時多言語情報報作成ツールの「翻訳文対比集」を参考に、避難所で必要なものなどについて話し合った。参加者は30名。



第2回 「避難所シミュレーション」

「避難所シミュレーション」は、7月8日（土）、とちぎ国際交流センターの部屋を使って、実際の避難所を再現し、体験してもらうというコンセプトで行った。

まずはオリエンテーションとして、1日のプログラムの説明後、セミナーの参加者は通訳言語ごとのグループ（英語3、中国語1、ポルトガル語1、スペイン語1及びその他の言語グループ（タイ語、ベトナム語、日本語の混合グループ）1の計7グループ）に分かれて、「通訳は全員で分担して行うこと」など簡単な打ち合わせを行った。

次に、センターの研修室に設置した避難所受付に外国籍の

避難者役の協力者7名（アメリカ人1名、フィリピン人2名、中国人1名、ブラジル人1名、ペルー人1名、タイ人1名）に来ていただき、避難者カード、避難所生活ルール、毛布2枚、ブルーシートを渡した後に、各言語の通訳グループが支援する訓練を実施した。避難所に見立てたセンターの多目的ホールで、通訳グループは毛布やブルーシートで避難場所を設営するのを説明し、避難者カードの記入を手伝い、避難所生活のルールの内容を通訳。避難者カード記入が終わったら受付に届けるが、アルファベットが読みにくいとか記入漏れがあるとか言われて再度記入しなおす。その後、食事（非常食）の時間を設け、避難者役への説明が終わったグループから非常食を受付にとりに行く。実際にこの時栃木県消防防災課からの提供の非常食（お湯を入れてすぐ食べられるフリーズドライの梅粥、山菜おこわ、クラッカー、非常用の水、そして協会で提供したバナナとカップ味噌汁の6点）を渡し、避難者役の人に作り方を説明。



最後に今回のふりかえりとして、在住外国人が災害時に安心して避難生活が送れるような「しくみ」「道具」は何か、災害時に備えて日常からの取り組みなどをグループにわかれで発表した。参加者41名。

世界をペロリ

ペルー料理「パパ ラ ワンカイナ」

材料(4人分)：

じゃがいも	8個
レタス	4枚
オリーブの実	4個
卵	3個
塩、こしょう	適量
サラダ油	少々
牛乳	300g
クラッcker	8枚
玉ねぎ	少量
カッテージチーズ	適量
イエローベッパー(生)	1個
ワカタイ(ハーブ)	適宜

このコーナーでは世界のおいしい食べ物をレシピ付きで紹介します。



今回、料理を作ってくれたのは、ペルー出身の中毛エメリソンさん。ペルーの代表的なポテト料理「パパ ラ ワンカイナ」を作ってくださいます。



▲ペルーのポテト料理「パパ ラ ワンカイナ」冷やしてもおいしい。



①鍋に水を入れ、じゃがいもと卵（殻つき）を煮る。玉ねぎの皮をむき、外側の部分を使用。生のイエローべッパーも予め切っておく。



②フライパンに油を入れ先ほど切った玉ねぎとペッパーをにんにくで軽く炒める。



③ミキサーに先ほど炒めた野菜とクラッカーを碎いて入れ、牛乳とチーズを加え、塩コショウして、細かくし、途中で油、卵を加え、最後にジャガイモを入れどろっとするまで攪拌する。



④皿にレタスを一枚のせ茹でたジャガイモを半分に切り、③のソースをかける。飾り付けで、卵、オリーブ、ハーブを乗せて完成。



栃木県外国人 地域支援室開設

失職した南米等からの外国人への緊急的生活支援のため、TIAでは6月から「栃木県外国人地域支援室」を開設しました。この「地域支援室」では、就職へ向けた日本語講座の開設のほか、言葉のできない外国人に対する市町等での相談窓口の設置や、外国人児童生徒への支援も行っています。マネージャー1人、アドバイザー4人の計5人で構成しており、アドバイザーの担当言語はポルトガル語2人、スペイン語2人となっています。早速、マネージャーとアドバイザーから仕事の内容とこれからの抱負について語ってもらいました。



外国人地域支援室マネージャー

岡本 英子

外国人の再就職支援のための日本語講座には3つのコースがあります。「集中日本語講座」、「日本語基礎講座」、「就職活動のための実技講座」です。集中講座は10日間のコースで、面接や履歴書に対応できるようなカリキュラムになっており、80パーセントの出席率で修了証を出します。この集中講座に関しては、今後も県北、県央、県南の各地で講座する予定で、8月には栃木市、9月



集中講座の開講式

にはここ国際交流センター（2回目）で、10月には真岡市で開講します。また、基礎講座は毎週1回の5ヶ月間のコースで、初歩のひらがながら確実に学べる講座になっています。実技講座は、自信を持って就職活動ができるよう、面接のシミュレーションと実際に履歴書作成を行う1回完結の講座です。どの講座もアドバイザーが受講者の母語であるポルトガル語とスペイン語で解説しています。基礎講座と実技講座は当国際交流センターで毎週土曜日に開いています。

支援室の事業としては、再就職に向けたセミナーの開催の他に、各市町外国人相談窓口へのアドバイザーの派遣、また外国人子弟への日本語支援などがあり、各市町や学校などからすでに派遣要請が来ています。各機関と外国人住民のコミュニケーションが円滑に行えるよう、またどのような支援ができるかということも検討しながら活動していくたいと思っています。

集中講座ルポ

6月16日から6月30日までの10日間、「就職活動のための集中日本語講座」を開講しました。定員15名の予定でしたが、22名の受講者が集まり、有意義な講座を開くことができました。受講者の日本語能力には個人差があり、4つにクラス分けをしました。最後にアンケートを行い、受講者からは「日本語が上達した」、「就職にも役立つ」、「今後も続けて日本語を勉強していきたい」などの意見も出了しました。講座最終日の閉講式には11名の受講生が修了証を受け取りました。この10日間で学んだことを十分に生かして自信を持って就職活動に取り組み、一人でも多くの方が希望の就職ができるよう願っています。

（レポート：野田アドバイザー）



集中講座の授業風景



修了証の授与式



中毛 紀香

(ペルー出身 スペイン語担当)

現在、外国人が非常に困っていることは、やはり失業ではないかと思います。私が勤めているTIA外国人地域支援室では、その人たちのために1日でも早く仕事につけるように、日本語を教えることが一つの仕事です。せめて日常会話だけでも話す、書く、読む、聞くことができれば今まで言葉ができないから困っていた生活も解決できると思います。

この不景気だからこそできる、空いている時間をうまく利用し、日本語の勉強に使うことをお勧めします。

また私の希望としては、日本語ができるけど医療用語ができない、言葉の面で不安がある等、その人達のために通訳またはできることがあれば助けてあげたい気持ちでいっぱいです。



植田 直樹

(ブラジル出身 スペイン語担当)

私は、外国人地域支援室に配属された植田直樹です。ここに来てから、いろいろなことを学び、素晴らしい経験もさせてもらっています。また、日本語を教える経験を通して、自分では分かっているつもりだった日本語でも人に教えるということの難しさを知りました。クラスでは、スペイン語を使って解釈を交えながら日本語を教えています。もちろん、アドバイザーとしてもがんばっていきたいと考えています。これから日本語指導やアドバイザーとして各地に赴き、多くの経験を積みたいと思います。外国人地域支援室には素晴らしい仲間や頼もしい先輩達がいます。できるだけ足を引っ張らないようがんばっていきたいと思います。



野田 欽司

(ブラジル出身 ポルトガル語担当)

私は、ポルトガル語アドバイザーとして、6月から外国人地域支援室に配属されました。相談員とアドバイザーは一見同じように聞こえますが、私たちアドバイザーの仕事は、相談を聞いてアドバイスするほか、日本語も教えます。現在、「日本語基礎講座」、「日本語集中講座」、「日本語実技講座」の3つの講座を開講中です。私たちアドバイザーは講師をしたり、サポートをしたりなど忙しい中に充実感たっぷりの毎日です。まだ始まったばかりの外国人地域支援室ですが、これからも栃木県全域を視野に日本語講座の講師や、市町での出張相談の対応など、一人でも多くの人に様々なサポートができるようにアドバイザーとしてがんばりたいと思っています。



石本 秀雄

(ブラジル出身 ポルトガル語担当)

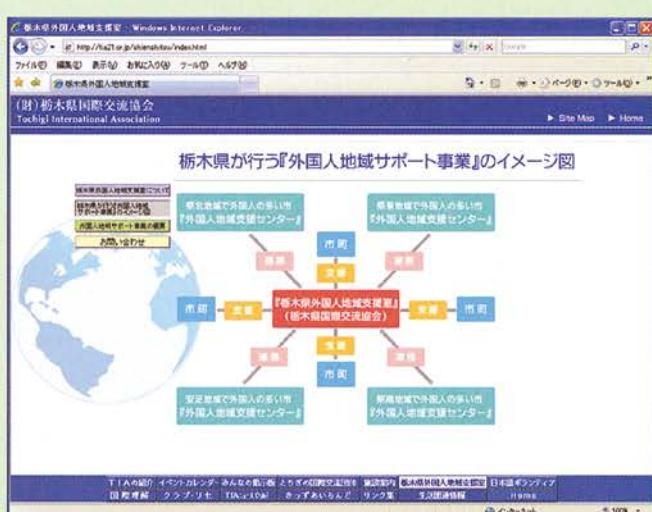
ブラジル国籍の石本と申します。外国人が最も困っていることは日本語が理解できないということです。日常会話ができなければ、様々な問題が起ります。たとえば、仕事がみつからない、職業安定所の求人票が読めない、労働基準監督署で会社の問題をうまく伝えられない、警察での手続きや病院での初診受付の書類が書けないだけでなく、病気の内容を医師にうまく伝えられない、また子どものいる家庭では、保育園や学校からのお知らせ等が読めないケースもあります。このため外国人にも、専門用語は正しく使えなくても、日常会話ができるようになってほしいと思います。また、将来的にはこの経験を生かして日本語教師になりたいと思っています。

「栃木県外国人地域支援室」のホームページ開設

TIAホームページに「栃木県外国人地域支援室」のコーナーを設けました。ここでは、「栃木県外国人地域支援室」の概要やPDFによる各地区の日本語講座お知らせ、また終了した日本語講座のカメララボなどを随時更新中です。

<http://tia21.or.jp/shienshitsu/index.html>でご覧ください。

TIAのトップページからも入れます。





▲エチオピアの人とともに

今回、写真を提供してくれたのは、小山市在住のJICA栃木デスクの知久志穂子さん。今年5月エチオピアのアシス・アベバで仕事をしているお姉さんを訪ねたときの現地の様子を写真で紹介していただきます。



エントット山からの景色

エチオピアの首都、アシス・アベバの市内が一望できる、エントット山（標高約3,000m）に行きました。地元の人が利用するミニバスを乗り継ぎ頂上の村を目指します。約30分の道のりです。日本でいう乗車定員なるものは存在しておらず、乗れるだけお尻合い状態でバスに乗り込み、かなりの急斜面を登っていきます。頂上まで向かう途中には、幅2mを越えるユーカリの木々を背負って山を降りる女性たちを目にしました。ふもとの町で燃料として売るそうです。途上国といっても首都になれば高層ビルが騒然と立ち並ぶ景色を目にしますが、ここエチオピアは緑がまだたくさん残っている国でした。



エチオピアでお世話になった人たち

(右からマスフィンさん（タクシー運転手）、アブデラさん（庭師）、ヨハネさん（門番）

私はアムハラ語が全く分からぬため、初めは絵とジェスチャーでコミュニケーション。時間が経つにつれて、日本語とアムハラ語の不思議な会話が成り立っていました（笑）。中でもアブデラさんは姉の自宅内の管理もしていたので、特にお世話になりました。いつの間にか「ベッドメーキングされていた」「食器が洗われていた」「綺麗なお花が生けられていた」など、きめ細やかな仕事ぶり&気遣いのおかげで、とても心地よく過ごすことができました。アブデラさんは田舎に家族を残してアシス・アベバに出稼ぎに来ているため、2週間に一度程度、家族に会いにピッアサ（日本の銀座にあたる）に出かけていました。その時の気合の入ったオシャレにはビックリ！でしたが、家族を想う気持ちちは世界共通なのだと感じました。

このコーナーで紹介する写真とエピソードを募集しています。
詳しくは、協会までお問合せください。（☎028-621-0777）

レポート Report

～「とちぎグローバルセミナー」から～

平成21年度国際理解教育実践セミナー

「国際理解教育へのアプローチ方法」

TIAとJICA地球ひろば主催による、国際理解教育実践セミナー「国際理解教育へのアプローチ方法」が平成21年7月5日（日）にとちぎ国際交流センター多目的ホールで青年海外協力協会の堀田直揮氏を講師に迎え、実施され、15名が参加した。このセミナーは、TIA&JICA地球ひろばを含む10の団体がそれぞれ主催する連続セミナー「とちぎグローバルセミナー」のひとつ。

まず、アイスブレーキング「国名は？」。参加者が思い浮かんだ国名を1つ書き、回収してシャッフルした後、各参加者に1枚配布。手にした紙は背後に持つ多くの参加者にイエスかノーで回答する質問をして自分の持っている国を当てるというものだ。次に長く張ったロープで、セミナーのやる気度、国際理解教育の経験度の質問を行い、自分の位置を決めるアクティビティを行った。その他3分割された写真を見て、どんな光景が写っているのか想像しながら書き足すフォトランゲージや「国際理解教育とは？」や「参加型学習を行う目的は？」などの国際理解教育へのアプローチ方法を教わった。最後は4枚の写真を使ってグループごとに自由にストーリーを作り、それぞれ発表した。



新規留学生のためのガイダンス

栃木県の大学などに入学した留学一年生を対象にTIAの事業紹介、生活上のアドバイス、交流ティーパーティなどを5月23日(土)にとちぎ国際交流センターで行った。

ガイダンスでは先輩留学生から日本語上達の方法や地域交流に関するアドバイスを受け、その後行われた交流会では、日本舞踊や、琵琶の演奏などを披露したりする留学生がいて、大いに盛り上がった。



平成21年度「とちぎ留学生奨学金」交付式

企業等からの寄付で行う「とちぎ留学生奨学金」に合格した3名へのガイダンス及び交付式が、7月22日(水)に、とちぎ国際交流センターで行われた。まず、県やTIAの事業を知つてもらうためのガイダンスで、栃木県の紹介、TIAの地域活動及びとちぎ国際交流センターの説明などを行つた。続いて行われた交付式では、TIAの橋本理事長より3人に奨学金交付決定通知書が手渡され、奨学生となった3人は、勉学はもとより、地域交流計画について意欲的に発表していた。



Club lycée 「Let's enjoy! アメリカの若者との交流会」

高校生のための国際理解クラブが7月30日(木)、とちぎ国際交流センターで行われ、ICEPという体験プログラムで来県したアメリカのYMCAの若者17名をゲストに、英語を使った楽しい交流会を実施した。

参加者は、自己紹介ゲーム、モノランゲージ、書道体験、いす取りゲーム、イラスト当てクイズ、ドーナツ食い競争など様々なアクティビティを通して、友好を深めた。



「日本語を教えよう！ステップ1」

外国人支援の一環としてボランティアによる日本語教室の拡充を目指すため、今年度は佐野市国際交流協会との協力を得て、ビギナーの方を対象とした日本語の教え方講座を7月16日から8月27日まで毎週木曜日(計6回)佐野市で実施した。講師は、宇都宮市国際交流協会で日本語指導をされている臼井佳子氏。遠方からこの講座に参加される方など熱心な受講者もいて、大変盛況な講座となった。



●篠崎真菜美さん（カンボジア／理数科教師）小山市出身

カンボジアのプレイベン州にある中学校教員養成校で活動します。カンボジアでは、理数科教育向上プロジェクトが行われており、やる気満々と聞きました！自然豊かで食事もおいしいようで、いろいろ楽しみがんばってきたいと思います。

●野村将幸さん（ブータン／コンピュータ技術）小山市出身

ブータンの職業訓練校でコンピュータを指導してきます。現場での問題点は何か、積極的に探していく気持ちで活動してきたいと思います。

＜日系社会青年ボランティア：1名＞

●石塚倫子さん（ブラジル／小学校教諭）藤岡町出身

小学校教諭としてブラジル・サンパウロ州に派遣されます。日系人の学校で日本文化を指導してくる予定です。日本がルーツの現地の子ども達に、明るく楽しい授業をしてきたいと思います。

＜日系社会シニアボランティア：1名＞

●半澤典子さん（ブラジル／司書・学芸員）宇都宮市出身

ブラジル・サンパウロ州・サンパウロ市にある「ブラジル日本移民史料館」で活動する予定です。日本移民に関する9万点余りの資料の整理・分類・アーカイブ化、ブラジル国内の日系社会に存在する史料（資料）館のネットワーク化、上記移民史料館での特別展を企画・立案・運営する予定です。渡伯の折には、ぜひお立ち寄りください。大歓迎いたします。

これから体験することは、きっと人生のかけがえのない財産になることでしょう。ボランティアの皆さんから届いた現地&活動情報は、隨時発信していきますのでお見逃しないように！TIAのホームページをチェックしてくださいね！



▲表敬訪問後の記念写真

KEMUCO商楽

販売管理システム

＜機能紹介＞

- ・受注管理
- ・在庫管理
- ・売上管理
- ・請求管理
- ・発注管理
- ・入金管理
- ・仕入管理
- ・売掛管理
- ・買掛管理
- ・物流管理

CTI等、サブシステムとの連携可能！
お客様にあわせたカスタマイズも可能！

KMC 株式会社 ケイエムシー

TEL:028-632-5111 FAX:028-633-7269

TIA内JICA栃木デスク 知久志穂子 (☎028-621-0777)

TIA Information Corner

外国人のための専門相談のご案内

TIAでは、総合相談のほかに栃木県精神保健福祉センター、栃木県弁護士会、栃木県行政書士会の協力を得て下記の専門相談を行っています。相談では医師、弁護士、行政書士の専門家が対応します。

外国人の方や外国人とのかかわりでお悩みの方はお気軽にご相談ください。相談は無料ですが、予約が必要です。

●精神保健相談

毎月第1・3火曜日 15:00~16:00

●法律相談

毎月第1火曜日 10:00~12:00

(祝日の場合は第3火曜日)

●入国・在留・国籍手続き相談

毎月第2水曜日 10:00~12:00

(祝日の場合は第4水曜日)

お問合せ(相談専用)

028-627-3399

中学生の作文コンテスト作品募集

作文を通して、国際協力や国際社会のあり方について理解を深める目的で、作文コンテスト栃木県大会を実施します。

■作文テーマ

「私にとっての国連ミレニアム開発目標」、「日本は国連で何をすべきか」、「もしも私が国連職員なら」のうちいずれか一つ。作文の内容は、学校、家庭、社会などにおける作者の研究や体験あるいは実践などを通し、国際連合について述べたもの。

■原稿

400字詰め原稿用紙4枚以内。原稿には標題、住所、学校名、学年、年令、氏名及び都道府県名を明記すること。(制限字数の中に含めること。)

■賞

優秀賞2篇、優良賞3篇、佳作5篇

優秀賞作品は全国大会へ推薦する(全国大会で特賞の4名は副賞として1週間のニューヨーク訪問を予定)。

■発表

平成21年9月下旬

※受賞者はとちぎインターナショナルフェスティバルで表彰します。

■募集締め切り

平成21年9月4日(金)必着

■応募・問合せ先

〒320-0033 宇都宮市本町9-14

(財)栃木県国際交流協会内 日本国際連合協会栃木県本部

028-621-0777 Fax.028-621-0951

栃木県国際交流協会 事業案内 Tochigi International Association(TIA)

～とちぎ国際交流センターの交流ラウンジ・図書閲覧室は どなたでも気軽にご利用できます～

■相談事業

在県外国人また県民の皆さまの国際交流・国際協力に関する相談に、専門の相談員が対応

■機関紙の発行・情報提供

TIAニュース「やあ！」や在県外国人向け外国語情報紙の発行

とちぎ国際交流センター内には情報交換のためのメッセージボードの設置

■各種イベント・講演会

国際交流促進や国際協力意識高揚を目的とした各種イベントや講演会の実施

■TIA協力者バンク

ホストファミリーバンク、インストラクターバンク、トランスレーターバンクの運営

*この他さまざまな事業を行っておりますので、お気軽にお問合せください。

*会議室等の施設利用についてはご相談ください。

賛助会員募集 !!

財團法人栃木県国際交流協会(TIA)では、賛助会員を募集しています。皆さまからの賛助会費は、TIAの様々な事業に使わせていただき、地域の国際化に役立っています。

年会費：個人 3,000円

団体 10,000円

法人 30,000円

財團法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人(寄付金の損金算入等の課税特別措置)の認定を受けています。当協会の事業にご賛同くださる各企業、団体等からのご出捐をお願いいたします。

とちぎインターナショナル フェスティバル2009

10月3日(土) 10:00~16:00

雨天決行

わくわくグランディ科学ランド 宇都宮市西川田町567

★外国文化の紹介

★ワークショップ

★食文化紹介・試食販売

★日本文化の紹介

★団体活動紹介

★ステージ・パフォーマンス

★外国の民芸品展示・販売

★各國のゲームやスポーツの紹介

各国の音楽と踊り



TIA ご案内図



編集・発行 財團法人栃木県国際交流協会

住 所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内

T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)

F A X 028-621-0951

業 務 時 間 8:30~17:30

休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日